

## 第59回日本公衆衛生学会総会学会長に就任して

第59回日本公衆衛生学会総会学会長  
群馬大学医学部公衆衛生学教室  
鈴木 庄 亮

平成11年秋に、大分県別府市で開催された本学会総会において、第59回日本公衆衛生学会総会学会長にご指名頂き、非才、身に余る光栄と存じます。

別府での総会は、内容、会場、運営とも素晴らしいものでした。群馬県での公衆衛生学会開催は初めてのことであり、群馬県関係者ともその責任の重さを痛感しております。これまで、群馬県、前橋市、県医師会、群馬大学医学部、県立医療短期大学その他の関係諸機関、団体と協議し、運営組織をつくって準備をすすめて参りましたが、一層肝に銘じて学会に参加された会員諸兄姉が、等しく満足してお帰りができ、かつその後のお仕事に生かすことができるように、関係者一同、会の運営にあたって参ります。

この学会総会のメインテーマは、2000年が20世紀と21世紀の橋渡しの年であることから、「温故知新」、すなわち「過去を顧みて、将来の展望をひらく」ことを試みたく、それぞれの分野・領域で、足もとを手入れしつつも、千年の将来も考えてみては如何か、と考えております。

特別講演の一つは「日本の公衆衛生：2000年に至る軌跡」で、過去を顧みて頂きます。演者は、小泉明先生（前産業医科大学長、現日本医師会副会長）です。学会長講演は「21世紀の社会・環境・健康：エコヘルスの提唱」で、自然環境と生活の中の健康をあとづけて、コミュニティ回復の可能性をジャワ農村の事例からさぐってみたいと思います。

もう一つの特別講演は、「老人の健康を左右するもの：アラメダ研究での行動・心理・社会・経済要因から」です。ライフスタイルのリスク要因の疫学的検討例が示されます。演者は、カリフォルニア州政府衛生部でアラメダ郡のコーホート研究事業を13年間行い、現在ミンガン州公衆衛生大学院（疫学部主任）のジョージA. カプラン教授です。

シンポジウムは5つ、地域保健福祉、介護保険、母子保健、感染症、人材養成などを考慮しています。教育講演も6題を予定、奨励賞講演、自由集会も予定しています。一般発表は前回同様18分科会とし、原則として示説発表のみとし、座長をおいて少人数で大いに討論して頂きたく存じます。

総会の場所、群馬県は、関東平野の北西の隅にあり、利根川を発する首都の水源地です。東京から新幹線で高崎まで50分、高崎から電車で10-15分で新前橋/前橋。主会場は前橋市内のイベントホール「グリーンドーム前橋」。利根川沿いに見える丸い大きな屋根の建物です。近くに32階の新築の県庁舎がそびえ、背景に赤城、榛名、上越の山々が見えます。むしろ、お車が便利です。水と緑と温泉もお楽しみ下さい。

総会関係者一同、群馬の学会にご満足頂けますよう、精一杯の準備をして、ご参加をお待ち致します。ご支援、ご協力の程、お願い申し上げます、学会長の就任挨拶と致します。